

地震を起こすという日本の空想上の魚  
「マキュラ」は斑点（この場合は暗斑）  
の意。したがって「鯨暗斑」。

Yasu Sulci（やすスルキ）2.0N 347.0E

日本の天の川 直訳すれば「平安」[「ス  
ルキ」はほぼ平行した溝と尾根が作る  
複雑な地域「スルクス（Sulcus）」の複  
数形。天照大神の岩戸隠れの神話で、八  
百万の神が「天安河原（あめのやすの  
かわら）」で対策会議を開いたという。  
その「安」であろう。]

[この衛星の地名は、神話伝説の水に関係す  
る名から選ばれている。これは、この衛星の  
名が海神ポセイドンの息子でやはり海神のト  
リトンに由来するからである。]

おわりに

以上、不確実な点や不明な点が多く残る極  
めて不完全なリストで発表が憚られる感もあ  
るが、私の現在の能力では、これ以上は調査  
が進みそうにないので、より完全なリストを  
作成するためのタタキ台として発表をお許し  
頂きたい。

巖島神社、旭川市博物館、惑星地質学者 自  
尾元理氏、東京大学地質学教室助教授 佐々木  
晶氏、ひろしま美術館学芸員 渡辺純子氏、広  
島市こども文化科学館学芸員 前野やよい氏に  
は、いろいろご教示頂いた。お礼申し上げます。

[以上は2000年4月23日、香川大学で開催さ  
れた「中国・四国地区天文教育研究集会（天  
文教育普及研究会中国支部・四国支部合同支  
部集会）」で発表したものです。]

佐藤 健

## 報告

## K T近畿天文クラブ第1回交流会報告

### 矢治健太郎（かわべ天文公園）

5月14日（日）、大阪市立科学館を会場に  
「近畿天文クラブ（仮）」という会合が行われ  
ました。これは昨年の全国高校生しし座流星  
同時観測会をきっかけに、近畿一円の高校の  
天文関係のクラブが一堂に会して交流する機  
会を持つと企画されたものです。今回、花

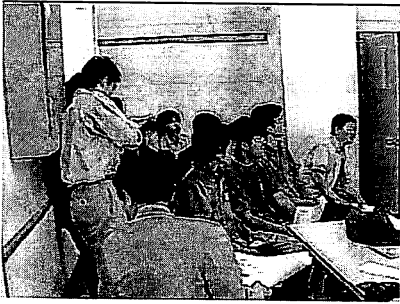


会場の高校生たち

園高校、三国ヶ丘高校、洛西高校、塔南高校、  
帝塚山高校、明星高校、岸和田高校、六甲高  
校、舞子高校の9つの高校が参加し、約60名  
の高校生が参加しました。このほか、生徒は  
参加してないものの、高校教員の方も何人か  
いらっしました。この会合の開催にあたり、  
渡部義弥さん（大阪市立科学館）、有本淳  
一さん（塔南高校）、寺戸真さん（岸和田高校）  
らが世話人として尽力されました。

かくいう私は、昨年の全国高校生しし座流  
星同時観測会の際、関西の事務局に自分の母  
校である岸和田高校を推薦した経緯もあっ  
て、今回、この会合に顔を出しました。

まずは、13時から、大阪市立科学館のプラ  
ネタリウム番組「惑星をさがして…」を鑑賞。



高校紹介を控えている高校生たち

そのあと、研修室に場所を移して、渡部さんが、このプラネタリウム番組の解説を行いました。

このあと、休憩をはさんで、交流会。各校1分という制限時間で、去年のしし座流星群の観測や日頃のクラブ活動の紹介をしていただきました。1分という短い時間で、うまくまとめたもの、時間をオーバーしてしまったもの、各校個性ある紹介をしてくれました。そのあと、「どんな活動を行っているか」「どんな望遠鏡を持っているか?」「どんな新歓をしているか」といったことをテーマに報告してもらいました。

参加した生徒からとったアンケート結果をみると、

「各校の活動や内情がよくわかりよかった、面白かった、楽しかった。」

「いろいろな学校のいろいろな天文活動のことがよくわかった。」

「プラネタリウムの補足説明はよかったと思う、興味深い話でした。」

「もう少し天文の専門的な話が聞きたかった。」

「合同観測会など他校とプロジェクトを組んで何かやってみたい。」

「もっといろんな情報を交換していきたい。」などなど、ここには書ききれないほどいろいろ感想がありました。彼ら高校生にとって非常に刺激に満ちたひとときになったようです。その反面、「もっと天文部紹介の時間が欲しい」など、やはり1分という紹介時間は短かったのか欲求不満に陥った子もいたようです。

最後に、この会合「近畿天文クラブ(仮)」と一応は呼んでいましたが、参加者のみんなで、正式名称を多数決で決めました。その結果、「天文部の天文部による天文部のための交流会」という非常に長い名前になってしまいました。きっと、そのうち略称がつくことでしょう。

初めての試みでしたが、高校間を越えて積極的に生徒たち自ら交流をはかっているようで、その意味でも大成功だったように思えます。

今回の会合には、高校関係者以外にも、私や石田俊人さん(西はりま天文台)の公開天文台関係者、川崎康博(本業医師、関西天文同好会)のようなアマチュア天文家などの参加者もいて、高校生らに自らの経験談を語ったり、エールを送っていました。

この会合は、今後も続けていくとのことですが、アンケート結果から高校生からは、おおよそ年に2回から3回くらいやりたいという声が出ているので、イベントに合わせて行っていくといいかもしれません。こういった会合を繰り返し継続していくことは大変なことです。高校生たちには非常に刺激に満ちた場になることは確かです。顧問の先生方や、周囲の人たちが応援して、いずれは自分たちの自主的な活動の場として発展していければと思います。

この会合は、今後も続けていくとのことですが、アンケート結果から高校生からは、おおよそ年に2回から3回くらいやりたいという声が出ているので、イベントに合わせて行っていくといいかもしれません。こういった会合を繰り返し継続していくことは大変なことです。高校生たちには非常に刺激に満ちた場になることは確かです。顧問の先生方や、周囲の人たちが応援して、いずれは自分たちの自主的な活動の場として発展していければと思います。